

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン 感謝のこころでふれあう地域づくり		
重点課題 地域交流「地域住民間における交流する機会の拡充」		
事業名	推進方法	評価
三世代交流の促進事業	①大江小学校運動会（10月）・三世代交流会（12月） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、広報活動をする。 ・役割分担表をもとに、学校やPTAと連携を図る。 ・大江小学校最終年となる今年度出来ることを追求する。	△
	②大江地区三世代グラウンドゴルフ大会（11月） ・自治会の協力（参加者の募集）を得て、三世代が集まる地域交流の場として開催する。 ・子どもたちの参加を図るための方策を講じていきたい。 ・「大江地区社協便り」へ、開催と参加者募集の案内を掲載する。 ・雨天となった場合の交流会を、屋内に変えて実施できる内容（競技種目など）を考えていきたい。	○
	③大江地区の広域なサロンを計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい（市社協助成事業）」を6月に開催する。 ・参加者全員がお互いに積極的に触れ合える環境づくりに努める。	○
現状および今後の方針		
・長年続く、高齢者を対象とした『まめでいりゃーす会』を今後も継続開催に努めていく。 ・地域住民間における交流機会の拡充を図るという観点で、より多くの参加者（高齢者、幅広い世代の住民、外国人等）の交流可能な内容の事業を工夫すること。（小運動会、スポーツ交流、夏祭等） ・海津小としてスタートする地元の児童との交流の機会を図っていくかを考えていく。		
重点課題 防災「防災・減災に対する意識の高揚」		
事業名	推進方法	評価
防災意識の向上事業	①講習会などの開催 ・災害は身近にあるものだとし認識し、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講演会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団と協力し開催する。 ・避難所運営ゲームを開催する。	△
	②災害対策 ・地区内における自主防災組織の編成について啓発していく。 ・避難所（学校）の防災備蓄品を確認し補充すべきものを確保及び要望していく。	○
	現状および今後の方針	
・防災意識・知識の高揚を図っていくことは大切で重要である観点から「災害への備え」と題した防災講習会を10月に開催した。講演の後に備品を使っの使用方法などの訓練を予定していたが、十分にできず次回に継続実施したい。また、防災備蓄品としてファミリールームを購入して合計12セットに増強した。今後は、防災・減災についての講習会の実施以外にも、特に避難所運営についての関心が高く要望も多いことからその訓練も計画し、備蓄品も充実していきたい。 ・自主防災組織編成の重要性については、講演会などを通じ啓発に努めていく。		
《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった		

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のこころでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	見守り「地域での見守り活動の積極化」
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
見守り活動の促進事業	①子どもたちへの見守り ・登下校の見守りを行うため、学校・PTAと協力し、各地点の当番表を作成する。 ・増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集する。 ・通学路周辺での見守り活動を呼びかける。 ・通学路の登下校時間帯での規制について働きかける。 ・小学校統合後の体制について検討する。	○
	②生活支援推進会議 ・自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催する。 ・定期的に福祉懇談会を開催し活動の具現化を協議する。	○
	③暮らしを支えあう活動・大江 ・生活支援「ちょこっと活動」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。	

現状および今後の方針
・小学生の登下校の見守りは、当番表により多くの方のご協力を得て活動出来た。令和6年度からは、学校統合後の見守りの方法を含め検討していく。小学生はバスによる登下校となるため、その方法等については十分な検討が必要である。新設の海津小学校からの方針として「各バス停までの送迎は保護者の責任において実施されたい。」旨のお願いがあり、その方針に従って具現化をし、効果的な見守りを構築する。 ・高齢者の見守りなどは、福祉推進委員や民生委員児童委員がきめ細やかに活動されている。本会としては、今後も引き続いて積極的な支援活動に取り組んでいく。 ・今年度発足した「大江ん隊」の今後の活動が期待されている。多くの方にサポーター登録をいただき、今後は研修会などを開催し、知識と意識の高揚を図っていくことが重要である。 ・福祉懇談会は実施に制約はあるが随時開催し、現状把握、課題などをグループで協議し、情報交換に努め本活動の重要性について更に認識を深めていきたい。市社協において実施された、高齢者へのアンケートでは、今のところ、「買い物・通院」で困っている方は無いが、「将来の移動手段」に不安を持つ方がいるという現状である。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のこころでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	広報「地域住民に対する地区社協の認識度の向上」
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
地区社協の啓発活動事業	①地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配布を依頼する。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、文字を大きくし、読みやすく分かりやすい内容となるような紙面とし、カラー版を継続していく。	○
	②イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事を掲載する。	○

現状および今後の方針
・地区社協便りは、年4回カラー版にて発行した。部会員が協力し、配布などの準備を行った。コロナ禍が明け、主なイベントが再開され、掲載記事も豊富となった。防災部会主催の講演会の内容をまとめ、チラシとして配布したことで、社協の事業を広く知らせることができた。 ・今後も引き続き、より地域住民に読みやすく分かり易い内容となるような紙面にしたい。カラー版もさらに充実していきたい。内容がマンネリ化とならないよう努めていく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった